

「親子キャンプ ～新春編～」

1. 趣旨

日本における「書」を活用した活動を通して、日本の伝統と文化に触れ合いながら親子の交流を深める。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和5年1月7日(土)～8日(日)

(2) 参加者

- ①参加対象 小学校3・4年生とその保護者 ※兄弟姉妹がいる場合も可
- ②参加人数 56名(21家族)

3. 企画運営のポイント

- ①「書道パフォーマンス」、「書初めにチャレンジしてみよう」、「書を楽しもう」では、「見る」、「体験する」ことを通して、日本の伝統文化に触れることを目的としたプログラムを導入する。
- ②「遊びリンピックをしよう」では、親子が様々な種目に取り組みながら、親子の交流を深める機会を設ける。
- ③「かまどで焼き餅をしよう」では、日本の伝統的行事の正月を体験できるような活動ができるようにする。

4. 日程

	午前	午後	夜
1月 7日 (土)		開会式 書道パフォーマンス 書初めにチャレンジしてみよう 書を楽しもう	遊びリンピックをしよう
1月 8日 (日)	かまどで焼き餅をしよう 閉会式		

5. 主な活動内容



「書道パフォーマンス」



「書道パフォーマンス(参加型)」



「書初めにチャレンジしてみよう」



「書を楽しもう」



「遊びリンピックをしよう」



「かまどで焼き餅をしよう」

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足 21 家族 (100%) やや満足 0 家族 やや不満 0 家族 不満 0 家族

(2) 参加者の声

- ・初めて、書道のパフォーマンスを生で見ることができてよかった。
- ・高校生がお手本を書いてくれたので、とてもよかった。
- ・家と違い、集中して取り組めていてよかった。
- ・遊びリンピックは子供も大人も夢中になって取り組めた。
- ・焼き餅ではいろいろな味があり、おいしかった。子供に火の怖さを教えられた。

(3) 成果

- ①書道パフォーマンスは参加型にしたことで、参加している児童も作品を作ることができ、貴重な体験になった。
- ②書初めでは、高校生が手本を書き、指導してくれたことで日本の伝統である書に親しむことにつながった。また、保護者対象のプログラムを企画することで、保護者も書に親しむことができた。
- ③遊びリンピックでは、ボランティアが主体となり企画運営を行った。参加者からは、子供に優しく接してくれて、安全な活動ができるよう見守ってくれたなど、肯定的な意見が多かった。

(4) 課題

- ①全体的に時間が押してしまい、入浴の時間や休憩時間が十分とれなかった。書道パフォーマンス、書初めの進め方について、高校側と十分に打合せを行う必要がある。
- ②家族単位での動きが多かったため、参加者同士が交流するようなプログラムを設定してもよい。

担当 企画指導専門職 中山 太平